

月刊・南ア・ニュース (2009年11月)

在南ア日本国大使館

1. 内政関連

●エアバス購入キャンセル

5日、政府は契約済みの8機の人員輸送軍用機エアバスの購入を撤回すると発表した。当初170億ランドと試算されていた関係経費は、ランドの相場変動や、見積り甘さ、作業の遅れ等で470億ランドにまで上昇し、その費用対効果につき大きな疑問が生じたため。この費用増大は、国防省予算執行にかかる監査報告書の記述に疑問を持った野党議員の質問から明らかになった。契約書には、供給側で一定期間以上の作業の遅れが生じた場合、返金規程の記述もあることから、シスル国防・退役軍人大臣は南ア政府から既に支払われている29億ランドは返金される見込みであると発表している。

●与党三者同盟会議開催

ANC、COSATU、SACPの南ア与党三者同盟サミットが13日から15日にかけて開催された。サミットでは世界経済危機への対処、包括的地方開発、教育、保健エネルギー、犯罪対策など幅広いテーマが話し合われた。一番の焦点は大統領府国家計画委員会の権限を巡るものとなったが、協議の末、マヌエル大統領府大臣が同委員会の委員長を務めるという当初の提案で合意に至った。

●NPA新長官シメラネ氏の任命、波紋呼ぶ

15日、自らの解任問題について裁判を争っていたピコリ前国家検察庁(NPA)長官が、政府と和解、起訴を取り下げたのを受けて、ズマ大統領はNAP新長官に前法務・憲法整備省次官のメンジ・シメラネ氏を任命した。しかし、この任命に対し野党側は揃って猛反発、司法関係者も懸念を表明し、南ア倫理委員会及び弁護士協会はシメラネ氏に対する公的な苦言書を近く提出する予定。

2. 外政関連

●南ア・ナミビア二国間委員会

3日、南ア・ナミビア二国間委員会がプレトリアで開催された。ポハンバ・ナミビア大統領は関係の7閣僚を率いて訪問し、ズマ大統領は5人の閣僚とともに一行を迎えた。両

大統領は開発分野における協力の進捗状況に満足していることを表明し、二国間経済フォーラムの重要性を確認。更に南ア、ボツワナ、ナミビアを結ぶトランス・カラハリ鉄道(アンゴラとDRCまで伸びるクネネ回廊もある)等の越境インフラの整備における進捗状況について確認した。また、二国間の文化、科学技術や教育分野における協力や2010年ワールドカップに関係する観光業の重要性や、SADCの地域統合への貢献についても確認した。特に、EUとの中間経済協力協定(EPA)については、この協定がSADCの地域統合に与える影響に対する従来の立場について再確認し、EUとの協議において協力していくことを確認した。国際問題では、国連及びブレトン・ウッズシステムの改革の重要性が確認されている。

●南ア傭兵、赤道ギニアから解放

4日、ズマ南ア大統領は赤道ギニア実務訪問をしたが、これに先立つ3日、同国においてクーデターを画策した容疑で2004年に逮捕・拘束されていた英国人傭兵1名及び南ア人4名の恩赦による釈放が発表された。報道が関連性について書きたてる中、南ア国際関係・協力省は4日、ズマ大統領の今次訪問(国際関係・協力大臣、国家安全保障大臣、エネルギー大臣が同行)の目的は、既に二国間で合意されている一般協力協定並びに二国間投資保護・促進協定を南アが実現していく用意がある旨を赤道ギニア側に伝えることにある旨、また、上記釈放については、今次訪問に関する友好の意思表示であるとして赤道ギニア側より連絡を受けた旨を発表した。訪問後の共同コミュニケでは、民間ビジネス関係促進の重要性が確認され、ンゲマ大統領は南アのビジネス関係者の赤道ギニア訪問を呼びかけている。

●ジンバブエ新調停チーム発足

11月5日にマプトで開催されたSADC首脳会議では、マダガスカル情勢のほか、SADCキンサシャ・サミットから状況が悪化したとされるジンバブエ問題についても話し合いがなされ、GPAに署名した各政党、ZANU-PF、

MDC チャンギライ派及び MDC ムタンバラ派は、15 日以内に GPA 実施にかかる残りの問題につき対話を開始し、30 日以内に終了すべきであると決定された。サミットで調停者に指名された南ア（ズマ大統領）は、3 名からなるジンバブエプロセス調停支援チームを設置。チャールズ・ヌカクラ大統領政治問題顧問、マック・マハラジ特使及びリンディウエ・ズールー大統領国際関係顧問を任命した。

●ヌコアナ＝マシャバネ大臣のスリランカ・インド訪問

13 日から 15 日、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣は、マッジーラ・アジア中東担当大使等とともにスリランカ、インドを歴訪。2010 年の第三回南ア・スリランカパートナーシップ・フォーラムの開催日や話し合われた。インドには、2 日間に亘るアジア・中東地域南ア大使会議開催などのための実務訪問。大使会議のスピーチでは、パブリック・ディプロマシーの重要性を強調。ムンバイ滞在中「ヌ」大臣は、Tata のグプタ特別顧問をはじめとしたビジネスコミュニティ関係者と会談した他、ソニア・ガンディ・ kongress 党首を表敬訪問し、クリシュナ外務大臣、シャルマ商務大臣とも会談を行った。

●国歌斉唱トラブル

フランスにおけるラグビー親善試合の開会式において、ラス・ドミサニという南ア出身歌手が南ア国歌をメチャクチャに歌ったと、国内から怒りの声が噴出。同歌手を紹介したとされる在仏南ア大使館にも非難が波及した。大使館側関係者は、フランスに在住する歌手を聞かれて同氏の連絡先を紹介したのは事実であるが、その活動内容については一切コメントしておらず、また推薦等も行っていない旨を主張。歌手本人は、ラジオ番組でフランスの主催者側が問題の多い音響機材を使わせたからだと弁明した。

●ブルンジ和平プロセス報告書の提出

20 日、ヌカクラ大統領政治顧問は、長く南アがイニシアティブをとってきたブルンジ和平プロセスに関する最終報告書をタンザニアで開催された東アフリカ共同体(EAC)サミットに提出した。マンデラ大統領、ズマ大統領、ヌカクラ顧問と南アが中心になって進めていたブルンジ調停は、2009 年 12 月にその使命を終了する。南アの調停の下、1000 人の女性

や 500 人の子ども兵士を含む 2 万 1000 人の闘争グループの兵士が帰還し、4000 人が国軍に統合された。現在も 100 人以上の南ア国防軍がルワサ FNL 代表等関係者の警護を行っているが、彼らも 12 月末に撤退する予定。

●第二回アフリカ韓国フォーラム

24 日、ソウルにおいて、第二回アフリカ韓国フォーラムが開催され、南アからはエブラヒム国際関係・協力副大臣が出席。同副大臣は、韓国がアフリカの貧困削減に果たした貢献を称えながら、今後 3 年の内に韓国の対アフリカ ODA の 4 倍増を求めた。また韓国が 2010 年後半に G20 の主催国になるにあたり、アフリカの懸念が適切に議論されることを望むと述べ、更には国連改革において、エズルウィニ合意に対する韓国の支持を求めた。エブラヒム副大臣は、韓国カウンターパートとの二国間会談も行っている。

今回のフォーラムの閉会式で採択された成果文書で韓国政府は、対アフリカ ODA を 2012 年までに 2008 年比で 2 倍に増やし、アフリカから研修生 5,000 名を招請し、ボランティアを 1,000 人以上派遣するとの公約を発表した。

●ノルウェー国王夫妻の訪問

24 日から 26 日にかけて、ノルウェーのハラルド 5 世国王夫妻が南アを公式訪問し、ズマ大統領と会談、フリーダム・パーク等南アのアパルトヘイト闘争において意義深い場所を訪れた他、プレトリア大学やケープタウン大学におけるレクチャーに参加した。

ズマ大統領は、国王夫妻に多くのビジネス関係者が同行したことを歓迎し、ヨハネスブルグとケープタウンで開催される南ア・ノルウェー・ビジネスフォーラムを歓迎、ノルウェーが対 GDP 比の 0.7% の ODA 拠出という国連の目標を達成していることを賞賛した。

●コモンウェルス首脳会議

トリニダード・トバコで開催されたコモンウェルス首脳会議にズマ大統領が出席。ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣もこれに先だって現地入りした。今回のテーマはより公平で持続可能な未来のためのパートナーと定められており、世界経済の動向や、若者に関する問題が話し合われ、気候変動問題に関してはデンマーク首相やメレス・エチオピア首相も含めたビデオ会議が行われた。ズマ

大統領は、ジンバブエのコモンウェルス復帰を認めるよう加盟国に呼びかけた他、オランダ首相、国連事務総長と会談をした。

3. 経済関連

●経済成長

南アの経済成長は第3四半期に0.9%のプラス成長を示し、第1四半期の-7.4%、第2四半期の-2.8%から回復し、不況が収束しつつあることを示唆している。回復は、第3四半期の成長は建設業と個人サービス部門が好調だったため。しかし、鉱業、農業、商業はマイナスのままであった。

●製造業

9月の製造業生産高の落ち込みは前年同月比で8月の-15.2%から、-11.4%と緩やかになり、前月比で3.1%成長した。前月比での伸びは予測以上で、製造業が回復に向かっているという見方を支持している。

●金利

中銀は11月の金融政策委員会で現行の政策金利7%の維持を決定した。ジル・マーカス新総裁は電気料金値上げと賃上げが、金利維持の主たる理由であると述べた。マーカス新総裁は、弱いランドに対する中銀の介入の可能性を否定した。

●農業

南アフリカの農民グループがリビア政府の招待を受けて、11月初旬にリビアを訪問した。同グループはリビアで農業を促進するにあたり、同政府との間での投資保護、南ア農民の身分保障及びインセンティブを含む規約で、合意に至ることを望んでいる。南ア政府は南ア農民のアフリカ進出を支援している。

●農地改革

南ア政府は2014年までに黒人農民に対して農地の30%を移譲すると定めた目標を達成できないことを認めた。これまで移譲されたのは30%中5%のみであり、政府は目標年を2025年に延ばすことを検討している。なお、効果的な農業が実施されているのは、移譲された土地の半数にすぎない。

●自動車産業

フォルクスワーゲン SA はこれから6年かけて右ハンドルの新型ポロを国際市場向けに安定供給する270億ランドの輸出契約を確保

した。この契約は今年の同社の輸出台数28,500台を、2010年に55,000台へと倍増させるものである。

●輸送

11月にトランスネットは、ケープタウンのコンテナ・ターミナル拡張向けに、フランス開発庁（AFD: Agence Francaise de Development）から220億ランドの融資を取り付けたことを発表した。サブ・サハラに対する融資として、同融資はAFDにとってこれまで最大規模である。

●電力

11月にアフリカ開発銀行はリンポポ州のMedupi火力発電所に対する200億ランドの融資を承認したことを発表した。2008年11月に、同行はエスコムの資本拡張プログラムに対して20年50億ランドの融資に署名しており、今回の決定により、この1年で同行からエスコムに対する2回目の大規模融資となった。

4. 広報・文化

●サムライジャパン出陣！

14日、ポート・エリザベス（PE）にてサッカー日本代表チームと南ア代表チームの親善試合が開催された。試合結果は0対0の引き分け。同親善試合は、南アフリカ代表にとってパレイラ監督及びベニー・マッカーシー選手復帰後の初の国際試合であり、当日は約4万人の観客がスタジアムに集まった。

また、12日、日本代表はPEに所在する孤児院（東部州青少年ケアセンター）の子ども達32名を練習スタジアムに招待し、サッカー交流を実施。ミニゲーム等を行った後、サッカーボール及び日本代表ユニフォーム等を子ども達に寄贈した。日本政府は同孤児院に対し、2005年に草の根無償支援プログラムにて職業訓練機材を供与している。

●ミス・ワールド南アフリカ大会

11月19日、2009年ミス・ワールド日本代表の佐々木えるぎさんが、ポート・エリザベスで開催されたミス・ワールド南アフリカ大会「ミス・スポーツウーマン」部門で1位を獲得し、本戦への出場を決めた。「ミス・スポーツウーマン」部門では、短距離走、バービージャンプ等により運動能力を審査。佐々木さんは、約120名の各国代表の中、見事1位

にとなった。2位はジャマイカ代表。ミス・ワールド本戦は12月12日にミッドランドのガラガー・エステートで開催される。

●ワールドカップ・チケット第3期販売

12月5日から来年1月22日までの間、ワールドカップ・チケット第3期販売が開始される。25日、記者会見において南ア・ワールドカップ運営委員会(LOC)のダニー・ジョーダン氏は「最安値のチケット(カテゴリー4)は140ランドであり、これはワールドカップ史上最も安価である」と述べ、南ア国民にチケットの購入を呼びかけた。11月6日に終了した第2期販売までに約70万枚のチケットが販売されており、第3期販売もこれまでと同様に抽選方式となる。チケット申込書はFIFAホームページ又は南アFNB銀行各支店にて入手可能。第4期販売は来年2月9日から4月7日まで(申し込み先着順に販売)。

繰り返していた。19日は午前5時20分にセンチュリオンの酒屋を襲撃して盗品を隠れ家に置いてから、プレトリア・モニュメントパーク地区に向かって犯行に及んだ。目撃者の通報を受けて捜索していた警察はその後同強盗団を発見して銃撃戦となった。

(了)

5. 警備・治安

●西ケープ州における外国人排斥暴力

17日、西ケープ州デ・ドーンズ地区で、地元の住民は農家が外国人を日雇労働としてトラックに乗せようとしたのを妨害し、不法居住区から約1,000人の外国人が避難する事態が発生した。地元の住民は、ジンバブエ人(一部レソト人を含む)は南ア人より低い賃金で労働しており、南ア人の労働機会を奪っていると主張している。この住民らは外国人の家を破壊する等の暴力行為に至ったので、臨場した警察部隊はゴム弾を使用。外国人襲撃の噂もあり、約1,000人が市役所に避難した。西ケープ州当局では、現場の状況を慎重に見守っている。

●プレトリアにおける武装強盗事件

19日、5人組の武装強盗事件が発生、プレトリア及び隣接するセンチュリオンにおいて強盗及び家宅侵入が5件次々に実行され、その中で2名の警備員が重傷、警察官が強盗1名を射殺し3名を逮捕する結果となった(強盗の他の1名は重傷)。この強盗団は先週プレトリア・ウォータークルーフ地区で発生した強盗事件(89歳の年金生活者が撲殺される。)にも関与していると思われる。同強盗団は、センチュリオン地区に所在するセキュリティー・コンプレックスを根城にして犯行を